

2020年12月7日 株式会社 昭文社ホールディングス
株式会社昭文社

東京23区生活者800万人に贈る！
凸凹に着目した新ジャンル地図誕生



スリバチ、古道、階段、暗渠…の達人が執筆・監修&徹底解説！アノ方?!も推奨『東京23区凸凹(でこぼこ)地図』&『東京スリバチの達人』発売!

～都市地図でもない、道路地図でもない、凸凹を可視化した画期的大縮尺地図帳～
～スリバチの伝道師・皆川典久氏の待望の新作！江戸・明治・現代の地図から地形を読み解く～

株式会社昭文社ホールディングス(本社:千代田区麹町、代表取締役社長 黒田茂夫、東証コード:9475)とその子会社である株式会社昭文社(本社:千代田区麹町、代表取締役 清水康史、以下昭文社)は、近年注目を集める「地形」に焦点を当てた出版物として、東京23区の高低差を可視化したこれまでにない大縮尺の地図帳『東京23区凸凹地図』と、東京スリバチ学会会長の皆川典久氏が、坂や窪地などいわゆる<スリバチ>状の地形を、その歴史的背景も含め説き起こす地形ガイドブック『東京スリバチの達人 分水嶺東京北部編/同 南部編』の計3点を、2020年12月14日より発売することをお知らせいたします。



<『東京23区凸凹地図』の表紙>



<『東京スリバチの達人』の表紙 分水嶺東京北部編(左)、南部編(右)>



)) 3点に共通する斬新な凸凹地図 ((

「東京には坂道が多い」とよく言われ、実際、各地の坂や窪地、階段といった地形をテーマに散策する番組等の影響もあって、そうしたスポットに関心を持つ方が増えています。

古くから地形を利用した街づくりが進み、治水・利水のネットワークが整備されてきた東京のデコボコ具合、暗渠を含む川の様子、窪地、坂・階段、古道・街道といった地形の全貌を、標高別に低いところから高いところまで、段差を明確にした色分けと、線情報、文字情報を用い斬新な地図で表現したのが、この『凸凹地図』です。



<『東京23区凸凹地図』の高低差色分け地図例「渋谷」拡大>

2020年12月7日 株式会社 昭文社ホールディングス
株式会社昭文社

)) 『東京23区凸凹地図』の特長 ((

武蔵野台地が形づくるスリバチ地形の宝庫、東京都心部を、散歩に適した**1:10,000** (1cm=100m)の地図でカバー、凸凹地形を極力正確に表現した、画期的な「**スリバチ地図帳**」です。

地形の達人、スリバチ地形の**皆川典久**、古道・街道の**荻窪圭**、河川・暗渠の**本田創**、坂道・階段の**松本泰生**といったその道の達人たちの協力のもと、スリバチ散歩に欠かせない情報もたっぷり収録。

ファン垂涎の本格デコポコマップです。



<左：凡例、右：実際の地図表記イメージ>

<「達人たちが選ぶ見どころスポット [地形編] >

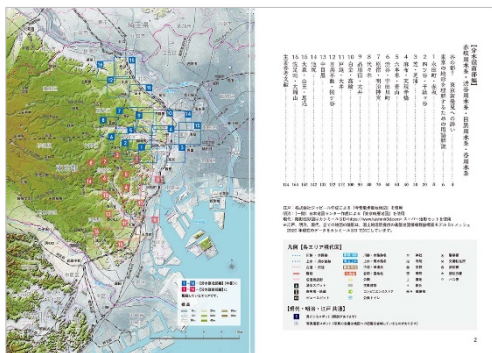
)) 『東京スリバチの達人』の特長 ((

東京スリバチ学会会長でもあり、地形好きの間では知らない人がいない**<スリバチの伝道者>**こと皆川典久氏による待望の「**東京再発見本**」。

江戸→明治→現代の変遷を地形視点から徹底解説しているほか、著者イチオシの**スリバチスポット**を写真入りで多数紹介。北部編・南部編を分水嶺で区切ったところ**も本書の斬新なウリ**となっています。



<左：江戸時代、中：明治時代、右：現代、それぞれの時代の地形目線での変遷が追えるページ構成>



<左：目次（分水嶺東京南部編）、右：著者皆川典久氏によるスリバチ地形の解説ページ「永田町・赤坂」>

)) 発売記念 Zoom イベントも開催決定 ((

来年1月20日には、『東京スリバチの達人』著者の皆川氏が登場する **Zoom イベント**（紀伊國屋書店主催）の開催も決定。東京の地形の奥深さを存分に感じていただけるレアイベントです。

|| 開催概要

イベントタイトル：**江戸から東京へ。時空を超える地形探訪**

日時：2021年1月20日（水）19:00～20:30

参加条件：『東京スリバチの達人』『東京23区凸凹地図』いずれかを12月12日（土）～12月29日（火）の間に紀伊國屋書店 Web ストアまたは全国の紀伊國屋書店で購入した方が対象。

場所：オンライン※本イベントは Zoom を使用した Web イベントです。

定員：最大500名、応募者が多い場合は抽選

詳細・お申込みページ：<https://store.kinokuniya.co.jp/event/1606712348/>

|| イベント概要

東京には数多くの窪地や谷間があり、湧水・水流によって形作られた姿を「スリバチ」と名付け、長年フィールドワークを続けてきた皆川典久氏。武士と町人が共存した江戸時代、太平洋戦争前までの帝都、そして現代のメトロポリス・TOKYOへと変遷する様子が、大地の記憶から浮かび上がる。地形ブームの火付け役ともいえる著者が、水都・東京の魅力を読み解き、これまでの発見を集大成した新刊刊行を記念、町歩きが楽しくなるっておきのエピソードを披露する。

|| 著者プロフィール

皆川典久（みながわ のりひさ）

東京スリバチ学会会長。1963年群馬県前橋市生まれ。東北大学工学部建築学科卒業。2003年に東京スリバチ学会を設立、凹凸地形に着目したフィールドワークを主宰し、観察と記録を続けている。2012年に「凹凸を楽しむ東京『スリバチ』地形散歩」（洋泉社）を上梓、翌年には続編を刊行。独特な視点は今日における「地形ブーム」の先駆けとなった。2012年から4年間、東北大学非常勤講師として復興支援に協力。2014年には町の魅力を発掘する手法と取り組みが評価され、東京スリバチ学会としてグッドデザイン賞を受賞した。地形マニアとして、「プラタモリ」（NHK総合）や「タモリ倶楽部」（テレビ朝日系）などのTV番組に出演。法政・大学非常勤講師の他、江戸・東京研究センターの客員研究員、高低差建築学会会長、沿道商店街組合理事など。



<著者近影>

)) 商品概要 ((

商品名：『東京23区凸凹地図』『東京スリバチの達人 分水嶺東京北部編/同 南部編』

体裁・頁数：3点ともA5判
352頁（東京23区凸凹地図）
176頁（東京スリバチの達人）

発売日：2020年12月14日
全国の主要書店で販売

定価：2,000円+税（東京23区凸凹地図）
1,500円+税（東京スリバチの達人）

出版社：株式会社 昭文社

